

物事を成し遂げる4段階理論

開倫塾

塾長 林 明夫

おはようございます。開倫塾塾長の林明夫です。今朝も「開倫塾の時間」をお聴きいただきましてありがとうございます。先週は、7月1日から1か月間法務省が行っている「社会を明るくする運動」についてお話ししました。刑法に示されている犯罪行為は絶対に犯してはいけない、誤って罪を犯したときは刑罰を以(も)て国が処罰するというのを、子供達に明確にすることが大事です。最近、文科省は法教育をしっかりと行いたいということを言っていますが、その通りであると思います。道徳は、相手の気持ちを思い量って優しい気持ちで接する、慣習を守るなど、社会の中で生かすものだと思います。法は、道徳とは違いますので混同してはいけません。刑法に書かれているような罪を犯してはいけないことを、子供達にしっかりと教育することです。また、犯罪を犯す人の中には、病気が原因という人もいますので、そのような人は早く治療することも必要です。

さて、今週は、物事を成し遂げるにはどうしたらよいかということで、私がまとめた「物事を成し遂げる4段階理論」についてお話しします。

私は、物事を成し遂げるには4つの段階があると思います。

1つ目は、目標を持つことです。漠然としたものではなく、具体的かつ明確な目標を持つことです。例えば、大学、高校に行きたい等です。

2つ目は、目標を達成するための計画を立てることです。例えば、授業にはきちんと出席する、テストを受ける等です。

3つ目は、実行です。これはとても大切です。睡眠や3度の食事、家の手伝いなどに必要な時間以外は実行に当ててください。

最後は、自省です。目標を持ち、計画を立てて実行に移すことができたなら、時々振り返ってみるということです。日記を付けることもよいでしょう。心を落ち着けて自分自身を見つめ直してみましよう。英語では、自省のことを reflection と言います。「熟慮する、熟考する」という意味です。物事を成し遂げるために最も大切なのは、これらの4つの段階を自分自身で行うこと、つまり自分自身で立つ「自立」です。「じりつ」にはもう1つ、自分を律する「自律」があります。これは、「自分をコン

トロールする、抑制する」という意味です。この2つの「じりつ」をどのように行ったらよいか、是非じっくりと考えていただきたいと思います。